

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 11月 14日

【評価実施概要】

事業所番号	0174100453		
法人名	株式会社コスモライン		
事業所名	グループホーム和の杜		
所在地	北海道釧路市星が浦大通3丁目2番14号 (電話) 0154-51-0753		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年9月25日	評価確定日	平成20年11月14日

【情報提供票より】 (平成20年8月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 3月 15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 8人, 非常勤 3人, 常勤換算	5.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	44,000 円	その他の経費(月額)	20,000~29,000 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要(8月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名	
要介護1	0 名	要介護2	1 名			
要介護3	3 名	要介護4	2 名			
要介護5	3 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	89.7 歳	最低	81 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	釧路谷藤病院 大島歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホーム長は、長く老人介護に携わり、利用者の人格を尊重しながらその人らしい生活を保障するために、豊富な経験をもって自ら率先し後進の指導にあたっている。職員も、より良い介護を目指す意欲が高く、職員間の意思の疎通も良い。職員の異動、利用者の退所は共に少なく、馴染みの関係ができています。利用者の高齢化・重度化が進み、利用者とその家族の意向や希望等を確かめ、医療者・職員で方針を共有しながら、必要な職員研修をして終末期にも対応している。また、五感への刺激、季節感等を重視し、一人ひとりの希望などを最大限引き出すよう努力しながら、利用者が生活に楽しみが持てるよう支援している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での要改善事項については検討し、必要な事項は改善をしている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価については全員で話し合い、更なる改善を目指している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 町内会長・地域包括支援センター職員・介護支援専門員等のほか、多くの家族が出席して会議を行い、事業所から取り組み状況の報告等をする。また、家族等からの意見を聴き、サービスの質の向上に活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 利用開始時には、家族に苦情相談窓口を知らせている。毎月のニュースレターでの報告の他、利用者の体調変化や、家族の来訪時等に様子を知らせ、話を聴くなど、意見等が言いやすい雰囲気づくりに努めている。また、運営推進会議には多くの家族が参加しており、意見を得ている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に入会している。運営推進会議にも町内会長の参加を得て、事業所への理解を深めている。地域的に住宅地が近くにないため、日常的な付き合いについては継続して努力をしており、地域の祭りに参加したり、事業所の行事には地域住民に声かけをするなどして、交流に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自理念を実践し、運営方針にも「地域と“共にある”こと」を掲げ、地域の中で暮らし続けることを支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフ会議での意見交換、利用者の状態確認、介護計画作成や実践のための話し合いの中などで、日々理念の具体化を図るよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会している。運営推進会議には町内会長が参加している。事業所行事には地域住民に声をかけるとともに、事業所への見学の申し込みなどにも対応している。	○	今後も更に、地域住民との交流が深まるような取り組みを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価の話し合いをしており、その中で管理者側が職員から気づかされることもある。今後重点を置いて取り組むこと等の確認もしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長・地域包括支援センター職員等の出席者ばかりでなく、多くの家族が出席し、様々な話し合いを行い、サービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じて市町村担当者と連絡を取り、働きかけをしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	1ヶ月に1度、利用者の普段の様子がわかるように、写真がたくさん載ったニュースレターを発行し、家族に報告をしている。職員の異動についても、写真付きで載せている。また、利用者の状態変化時等には電話などでも報告している。日常的に事業所のホームページを更新し、日々様子を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情対応窓口を明らかにしている。運営推進会議にもたくさんの家族が参加し、意見をj得ている。家族来訪時には、意見を聴くよう声をかけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は少なく、利用者との馴染みの関係ができています。職員間の連携や意思疎通を図りながら、職員が代わる場合の利用者へのダメージ予防に努めている。	○	新しい職員が入るときには、できる限り前任者との引き継ぎ期間等をとったり、重度の利用者の介護等についての研修を受けるなどの取り組みが望まれる。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地元だけではなく、札幌で行われる研修等にもできる限り参加するようにしている。研修を受けた職員は、他の職員に学んできたことを報告している。	○	90歳代の利用者が多く、重度化が進んでいることもあり、職員は、経験豊富なホーム長の下で働きながらのトレーニングを行っており、今後も更に継続することを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、交換研修を行っているほか、介護関係の学校の実習生や個人なども受け入れている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に相談を受けたり、事業所への見学や、職員・利用者と一緒にお茶を飲んで話をするなどしている。これまでの生活状況・生活歴等を詳細に聞き取り、安心して暮らせるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活の知恵や身だしなみなど、利用者に教えられることも多く、食事の支度・後片付け・洗濯物たたみ・包布の片付け等を、利用者も職員と共に行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族に連絡を取り、自宅に行き犬に会ったり花を見てきたい、手紙を書きたいなどの思いや意向、食べたいもの等を、利用者との日常の会話の中から職員は把握するよう努めている。困難な場合は、もともと好きだったものや好みを、家族に確かめるなどしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりへの担当者制をとっている。本人・家族の意向を聴き、介護計画を評価しケア会議で話し合っており、介護支援専門員に提示して助言を受けながら作成している。重度のケースでは、医師・看護師の助言も仰ぎながら計画を立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、定期的に見直しを行うとともに、利用者の状況変化に応じて、その都度新たな計画を作っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が以前住んでいた地域や場所、家などに出向いたり、ドライブや買い物に出かけるなど、できる限り柔軟な支援をするよう努めている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に、医師・看護師の往診があり、緊急時には、医師の携帯に電話をかけ指示を仰いでいる。協力医療機関以外にも、以前からのかかりつけ医に受診している利用者もいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状態に応じて、家族や協力医療機関と相談をし、職員で方針を共有している。医療機関とは、24時間の連絡体制ができています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティングやスタッフ会議等でも、利用者のプライバシーや誇りを傷つけるような対応をしないことを確認し合っている。個人情報は事務所に保管し、記録の入力は必ず事務所で行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、起きる時間や食事の時間など、利用者の希望に沿うようにしている。外出がしたい、食べたいものがあるなど、その日の希望にも沿うよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・調理・後片付け・買い物など、利用者のできることを活かしながら、職員と一緒にやっている。季節感を採り入れ、行事食なども作っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には決まっているが、必要などときには夜間でも対応している。必要な利用者には全身清拭、陰部清拭なども行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	人の役に立ちたいという気持ちがどの利用者にもあることを職員は認識しており、洗濯物たたみ・調理・茶碗拭き・スパゲティや素麺折り・季節の飾り物を一緒に作るなどしている。また、ゲームなども楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物・散歩・ドライブなどをしたり、テラスで昼食会を行ったり、ショッピングセンターでの買い物や祭りへの参加、病院の帰りに喫茶店や食事に寄ったりするなど、楽しみながら外出できるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全てが、鍵をかけることの弊害を認識し、夜間以外には施錠をしていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、避難訓練を行っている。スタッフ会議でも災害時の申し合わせをしている。災害時のマニュアルを用意するとともに、連絡網も作成している。防火管理者研修への受講も予定している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員に調理師がおり、献立をたてている。利用者の好みを考えながら、季節のものや行事食なども採り入れている。必要な場合は記録を取り、一日を通じて食事・水分摂取量を確保できるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を食卓に飾ったり、鉢植えや季節の飾りなどで共用空間に季節感を採り入れている。空気清浄機や炭を各所に置くなどして、臭いの除去に努めている。また、熱帯魚の水槽を置き、利用者や職員等の目を和ませている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は、掃除が行き届き、気持ちのよい空間となっている。また、家族の写真・家族の描いた絵・好みの家具などを持ち込み、居心地良く過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。